

# SSO 基盤構築のための Shibboleth-Driven Approach



Nov. 5<sup>th</sup>, 2010

成城大学メディアネットワークセンター

五十嵐 一浩

## そもそもの発端

- ・2007 年頃より 学内 IC カード導入検討開始
- ・2008 年夏 学内 PKI インフラ構築の必要性から, NII 様主催の軽井沢セミナーに参加
  - 学内 PKI 構築のハードルの高さを痛感.
  - 一方, 学内では Felica ベースで対応アプリケーションを無理やり募集するといった強引な IC カード導入計画が進められていた.
  - 最終的に IC カード導入予算は付かず, 中途半端なシステム導入の回避には成功.

## 研修の成果物は？

- ・学術基盤構築・運用におけるリソース共有の重要性を再認識
  - 中規模の文系大学単独では可能性に限界がある.
  - 大学の構成員は「成城の学生だけ」を Care していればいいのか？
- ・忘れてしまいがちな Give & Take の精神
  - 成城大学として, どのような貢献が可能(もしくは必要)なのか？
- ・研修参加者間でのヒューマン・ネットワークの拡張
  - 情報センター等技術職員研究会への参加

# モチベーション向上と意識変革こそが最大の成果物

・何から着手すべきなの...

・eduroam は学

・提供できるソフト

... 会がうるさそう...

成城大学 五十嵐様  
NIIの樋口です  
先週は、軽井沢セミナーにご参加いただきありがとうございます  
ございました。  
UPKIプロジェクトでは、Eduroamのほか、Shibbolethに  
よるシングルサインオンの実証実験も現在行っております。  
<https://upki-portal.nii.ac.jp/SSO>  
ホームページでは、8月末で締め切りとなっておりますが、  
まだ参加していただくことは可能ですので、ぜひご検討  
よろしくお願いいたします。  
樋口 秀樹 <higuchi@nii.ac.jp>  
国立情報学研究所 基盤企画課 連携システムチーム

Shibboleth の情報収集開始

→ 情報交換会にて曾根原先生や山地先生と出会う

「Shibboleth IdP は Filter !」

## 成城大学での認証基盤再考の背景

- ・認証基盤整備が遅れていた成城大学では、SSO を意識しない部署毎の Web サービス導入が始まった。
- ・SSO 化を希望するユーザーの声も弱かったため、商用製品を導入するには予算確保が困難であった。
- ・大学が契約している電子ジャーナルの利便性向上については、図書館担当者も含め、より簡便な仕組みが求められていた。
- ・肝心な学生からの SSO 化要望を組み上げる仕組みも存在しなかった。



## Shibboleth から始めてみよう。

[Pros]

- ・導入予算不要の為、センター主導の Small Start で基盤構築可能。
- ・GakuNin へ参加すれば NII 様提供の Web サービスも有効活用できる。  
→ Casify or Shibbolize の解
- ・図書館システム連携のトリガーになると期待。

[Cons]

- ・各部署管轄の既存 Web サービス改修にはコストがかかってしまう。

# Shibboleth Idp 先行構築のアプローチ

(SSO 基盤が存在しないという前提のもとに)

学内の Shibbolize が完了してから GakuNin へ参加ではなく、  
GakuNin へ参加してから学内 Web サービスを段階的に Shibbolize .

→ 既存認証基盤へ影響を与えず，サービス拡張可(DreamSpark, Fshare etc)

→ 外的要因による管理対象属性の整理促進

→ ユーザーに SSO の便利さを部分的にでも体感してもらえる.

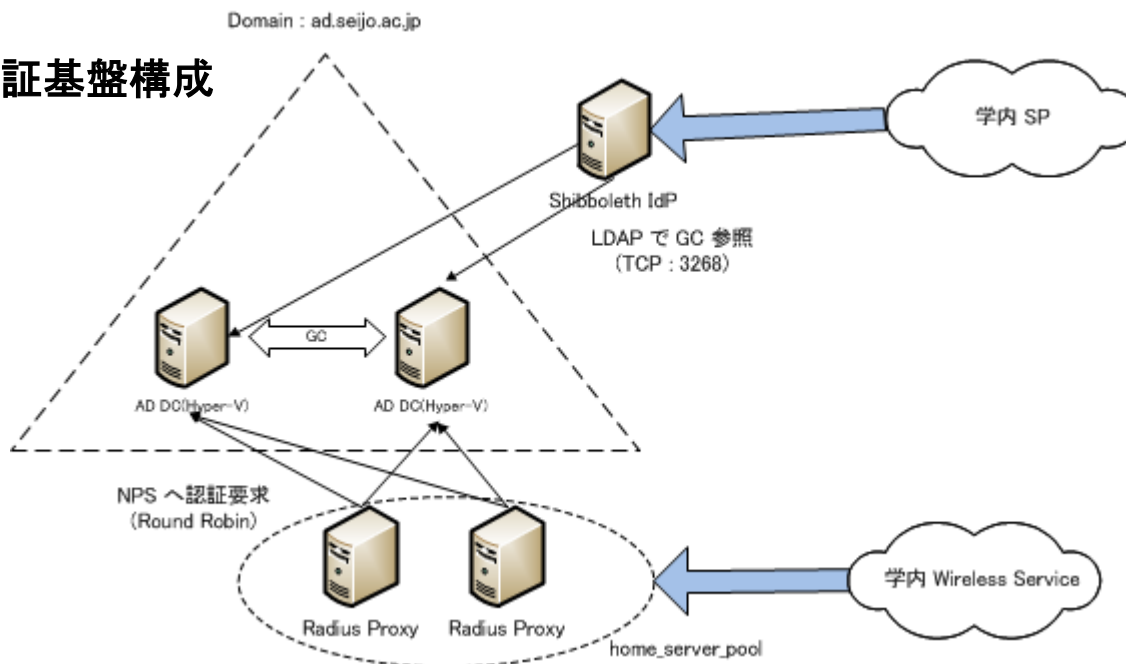
→ 特に成城の場合，実装しないと話が進まない.

→ 他大学の学生が利用できるサービスを成城の学生達が利用できない  
となれば，それは管理者である自分の責任.

# Shibboleth 稼働までの経過

- ・2009 年 12 月 テストフェデレーション参加
- ・2010 年 3 月 教員・学生認証環境統合
- ・2010 年 4 月 運用フェデレーション用 IdP 構築と GakuNin へ参加申請  
(GakuNin 参加については, センター委員会の事業計画説明時に報告し, 委員会の承認を得た.)
- ・2010 年 5 月 GakuNin への参加承認
- ・2010 年 7 月 学内 Web サービスの Shibboleth 化着手

## ■成城大学認証基盤構成



## 現在進行中のタスク

### ■成城大学としてできること(1)

→ 公開 SP を独自開発・提供するだけの体力はない為、  
関連ベンダーに Shibboleth 化を強く要望していく

- ・語学 e-learning アプリケーション(商用)の Shibboleth 化共同開発  
ALC 社 NetAcademy2 で Reverse Proxy 経由の SSO  
2011 年 4 月よりサービスイン
- ・電子ジャーナルの Shibboleth 対応を図書館と共同で要望中  
本学で利用者の多い EBSCO から Shibboleth 対応について連絡あり
- ・学生用 Portal の Shibboleth 化検討(InfoScoop で実験予定)

### ■成城大学としてできること(2)

→ 内部開発 Know-How の公開

- ・Yahoo! Mail Academic Edition の AEAAuth 認証を Shibbolize  
LDAP 経由での認証とは別の入り口で実装

## 今後の課題

- Load Balancer を活用した IdP の冗長化(2011 年度予算申請中)  
SP の増加前に安定基盤を準備
- 教員用 Webmail  
Shibboleth 対応実績のあるシステムへ更新検討中
- 部署毎導入商用アプリケーションの Shibbolize  
SSO 実装の説得と予算確保(Campus Square, シラバスシステム etc)
- WLAN Service の認証一元化  
Opengate SSO は学内環境だけを考えると魅力的。  
eduroam や認証 switch によるネットワーク認証実装との兼ね合いも要検討
- 組織改編も視野に入れた運用設計変更  
事務系システムや幼小中高は別の認証基盤  
組織横断的なアプリケーションを SSO 化するのが難しい  
(Cybozu Garoon は学園管轄...)